

一日目の原爆ドーム、平和記念資料館では長さ約三メートルという小さな原爆が罪のない人々を殺し、町の風景を壊したことが展示物から分かり、心がしめつけられました。二日目の平和記念式典では、昨年の広島土砂災害で一人の友達を失った小学校六年生二人による「平和への誓い」がありました。大切な人を突然なくした時の気持ちはすごく悲しいものだと思います。だから今、僕が何事もなく平和であることがどれほど有難いことかを実感しました。広島に原爆が投下されてから、今年で七十年が経ち被爆者の平均年齢が八十歳を超えたと聞きました。年々戦争体験者が減っていくなかで、世界唯一の原爆が投下された国として、広島、長崎の恐ろしい記憶を忘れることなく、次の世代へと語り継いでいく必要性を強く感じました。また、学校の授業だけでは知ることのできなかつたことを多く知ることができ、この二日間は僕にとって貴重な体験となりました。



八月五日、六日に平和体験学習で広島へ行きました。初めてで、知らない人がいる中とても不安でした。さらに「私が代表として行ってもらうてよかった。」と思ってもらえるのかなど、本当にたくさんの不安がありました。広島に行く前の準備の千羽づるの制作では、私が一つ一つなげている時に、「行けなかつた人たちの分までがんばって来よう。」と思いました。一日目の原爆ドームなどの見学はとても迫力があり、特に資料館では実際に残ったものが展示されていたので、怖いという思いや悲しい気持ちになりました。これらを見て本当に戦争はつらいものだと思えました。その後、みんなで作った千羽づるを置きにいったとき、たくさんの千羽づるが他にもあり、本当にたくさんの人が平和を願っているんだなあと思いました。二日目の平和記念式典では地元の小学生がスピーチをしていて、私よりも小さい子たちがハキハキと言っていてとても感心しました。他にも安倍総理や広島市長さんなどがスピーチをしていて、本当に私はすごい場所に来られたのだと思いました。今回を通して行けなかつた人たちの分まで私はがんばれたと思います。とても良い思い出になりました。